

白山地区地域福祉保健計画 意見交換会の意見をまとめてみました。 どうぞお読み下さい！



地域福祉保健計画地区意見交換会って？

平成17年度に作成される地域福祉保健計画を「できるだけ地域の意見を吸い上げて現実的な計画にしよう」という趣旨で11地区で開催しました。

白山地区はいつどこで行われたの？

平成16年9月4日(土)18(土)2回白山地区センターで行いました

だれが何人集まって話し合われたの

1回目44名 2回目42名 地域の様々な立場の方が参加しました。

どんな話し合いがすすめられたの

1回目は地域で困っている様々な問題、課題をあげてもらいました

2回目は1回目に出てきた問題を具体的にどんなアイデアで解決できるかを話し合ってみました。

1,2回とも8人程度のグループディスカッション方法でできるだけ話しやすい雰囲気、どんな意見も尊重しようというルールで行いました。

道路・生活環境・まちの防犯のアイデアが出ました

困っていること

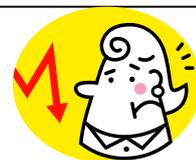
道路整備が悪く、迷惑駐車等で歩行等が困難です

駅前の交通渋滞の改善したい



こんなアイデアが出ました

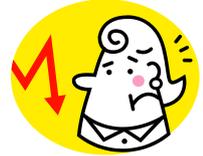
- 1 違法駐車等について、人の声ではなく地域住民のこえとして挙げていく
- 2 災害時にすぐ動けるよう違法駐車等について地域全体で考えていく。
- 3 空き巣対策として防犯パトロールしよう
- 4 あいさつ運動の名目 = 「まちの防犯」
- 5 防犯をテーマにして話し合いを発展する



災害時の高齢者対策のアイデアが出ました

困っていること

閉じこもりの高齢者が災害時安全に避難できるか心配である。



こんなアイデアが出ました

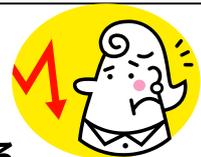


- 1 高齢者を把握するために参加したくなるような楽しい集いを考え、回覧や張り紙も工夫する。
- 2 把握した高齢者に対しては、民生委員と連携して、災害時の声かけ方法を考える
- 3 災害時のために本人の了解を得た上で、災害時用の名簿をマンション等で作る。
- 4 災害等にそなえボランティア団体を作る(中高年を中心に) 救命・救助活動を学ぶ。
- 5 ボランティア団体は民生委員の協力を得て一人暮らし高齢者の存在を把握する。

地域の中で、温かい心を持って子どものしつけや教育を考えるためのアイデアが出ました

困っていること

地域の子どものふれあいがなくなり、他人の子どもに声をかけたり注意したりすることがすくなくなっている



こんなアイデアが出ました

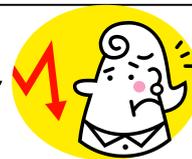


- 1 同世代の子どもを持つ親の交流会
- 2 まず、家庭でしつけや教育について多く話し合う機会を持つ。
- 3 地域で遊んでいる子どもに大人から率先して声をかける。
- 4 朝は「いってらっしゃい」帰りは「おかえりなさい」と声をかけてみる。
- 5 小さい時から親が子に接する時に、肉声を使って体を使って接してやる事が大切。いろいろな機械に頼っている気がする。
- 6 親、学校、地域全体で子どもに対して直接声をかける。
- 7 親が自然(態)体で挨拶をする習慣をつける。
- 8 両親を含む地域の大人が子どもがやりたいことを聞いてみる
- 9 子どもから親へ親から子どもへ地域のふれあいの輪を広げていく
- 10 子どもが集まると親も集まる。どういう行事なら参加したいかを子どもに聞いてみる。
- 11 「お」はよう 「あ」ありがとう「し」つれいします「す」みません おあしす運動
- 12 知り合うことによって、声をかけやすくなる。

地域のつながりを強くするのアイデアが出ました

困っていること

「自治会の活動がわからない」「地域にどんな団体があってどんな活動をしているかわからない」という人がいます
あいさつができない子どもと親が増えています



こんなアイデアが出ました



- 1 地域の諸活動に積極的に参加できたらよいと思う。まず、自治会活動から。
- 2 地域の催し物、行事に参加し、顔見知りになり、そこから自然にあいさつが生まれる。
- 3 地域で活動しているいろいろな会が集まり、お互いに話し合いができ、横のつながりもてる機会をつくる。地域の活動を紹介できる場になるとよい
- 4 家庭、学校地域（自治会、子供会他）連合自治会が中心となって声かけ運動（登下校時・下校時のあいさつ）あいさつ運動をする。
- 5 あいさつ運動のタスキを作り、あいさつがしやすい環境をつくる。あいさつ強化週間
- 6 若い人たちの中にも地域のために貢献したいと思う人を引っ張り出す努力をしよう。
- 7 気軽に声かけができるように、地域全体で一人一人が意識をもって進めていく。
- 8 一人一人が意識して挨拶をするようにする。
- 9 回覧板のまわした方についてドアノブにかけるだけではなく、会話をしよう
- 10 地域の人たちが参加できるようなきっかけ作りをしよう。
- 11 相手の気持ちになって行動をおこさせるようなまちにしよう。
- 12 小さなことから始めて、それを積み重ねて大きなパワーにしよう。
- 13 人との結びつきの原点は会話の機会を多く持つこと。
- 14 この様な懇談会を持つことによりコミュニケーションの場が広がる。
- 15 キャッチフレーズ（あいさつは一日の始まり）等を決めて、各自治会で対応する。
- 16 「あいさつをしよう！」チラシを作り、回覧、提示する。
- 17 親が自然（態）体で挨拶をする習慣をつける。まず声かけ運動。顔見知りになること
- 18 いろいろな世代が出会えるきっかけづくり。
- 19 お互いに知り合いになる為に子どもがさんかしたい行事を知る。

参加者が考えてくれた地域福祉保健計画の白山地区キャッチフレーズ（将来像）です。

「あいさつからはじめよう白山」「ハロー！白山」

「お互いに「おもいやる心」のあるあたたかい街を！」

「みんなお互い顔見知りになろう！！」「支えあいのある町白山」

高齢者の孤立化を防止するアイデアが出ました

困っていること

地域での交流が少なく、引きこもりがちな高齢者がいる



こんなアイデアが出ました

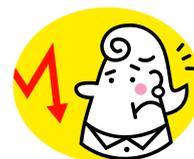


- 1 高齢者の得意な昔遊び・野菜づくり等を生かした子どもとの交流の場を企画する。
- 2 高齢者自身に水まき、そうじ、買い物等を通して「外に出る」ように働きかける
- 3 根気良く色々な手段で呼びかける。顔を見たら何かの挨拶を交わす。会えば必ず声を（あいさつ）かける。
- 4 高齢者がどこに住んでいるか把握し、お互い知り合う。
- 5 高齢者が地域の人と出会い、話しをするきっかけを作る。
- 6 配食サービスや地区社協の活動を通して安否確認や見守りをして 高齢者のひきこもりを防止しよう。

高齢者の生活を支えるアイデアがでました

困っていること

一人暮らし高齢者、身体の不自由な人、痴呆の人でゴミ出しが困難な人がいる。役所からきた冊子をG30みてもわからない、字も小さくてよみづらい。



こんなアイデアが出ました



- 1 一人暮らしの高齢者でゴミを定刻に玄関に出してもらい、安否確認も含めて近隣の人が集積所に運ぶ。その際、分別ゴミ出しもあるのでゴミ出しをお願いする高齢者にも少しはわけておいてもらう。
- 2 大きな紙にペットボトル、プラスチック、紙類と書いて分別できるようにしておく。
- 3 ゴミ出しをきっかけに地域の輪が広がる。